・10　家庭科

学校番号	T1208

平成31年度　　家庭科

教科	家庭	科目	家庭基礎	単位数	２単位	年次	１年次
使用教科書	家庭基礎　ともに生きる 明日をつくる（教育図書）						
副教材等							

１ 担当者からのメッセージ（学習方法等）

・家族や家庭生活の在り方，子どもと高齢者の生活と福祉について理解し，共に支え合って生活することの重要性を考えましょう。

・自立した生活を営むために必要な衣食住，消費生活や生活における経済の計画に関する基礎的・基本的な知識と技術を修得しましょう。環境に配慮したライフスタイルを考え，主体的に生活を設計することができるようになりましょう。

・自己の家庭生活や地域の生活と関連付けて生活上の課題を設定し，解決方法を考え，計画を立てて実践することを通して，問題解決の能力を身に付けましょう。

２ 学習の到達目標

・人の一生と家族・家庭及び福祉，衣食住，消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を修得させ，家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに，生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。

３ 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:技能	d:知識・理解
観点の趣旨	人の一生と家族・家庭及び福祉，衣食住，消費生活などについて関心をもち，その充実向上を目指して主体的に取り組むとともに，実践的な態度を身に付けている。	人の一生と家族・家庭及び福祉，衣食住，消費生活などについて課題を見いだし，その解決を目指して思考を深め，適切に判断し，工夫し創造する能力を身に付けている。	人の一生と家族・家庭及び福祉，衣食住，消費生活などに関する基礎的・基本的な技術を身に付けている。	人の一生と家族・家庭及び福祉，衣食住，消費生活などに関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。
評価方法	・出席状況 ・ノート等の記述 ・授業態度 ・課題の作成や発表	・ノート等の記述 ・課題の作成や発表 ・定期考査	・実習の技能 ・定期考査 ・ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ等の記述	・定期考査 ・実習後の感想 ・課題の作成や発表

上に示す観点に基づいて，学習のまとまりごとに評価し，学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて，それぞれの観点を適切に配分し，評価します。

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元（題材）の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
前期	ともに生きる	人の一生と家族	○	○			a:自分のライフスタイル，現在や将来の生活設計のために身に付けるべき知識・必要な事柄に関心を持つ。 b:男女の平等な付き合い方(関わり方)について自分なりに考え，まとめている。	・ノート等の記述 ・課題の発表 ・実習の技能 ・定期考査
		保育		○		○	b：自分の高校卒業後の人生（進路，結婚，子どもを生み育てるか等について，考えをまとめている。 d：夫婦に関する法律の基本的な趣旨を理解している。	
		高齢期		○	○		b：高齢社会の現状と高齢者を取り巻く社会の課題について，個人・家族・社会の視点から考え，それぞれがどのように機能すればよいのか考えをまとめている。 c:日常生活に必要な基礎的介助ができる。（車いす介助） d：高齢者福祉の基本的な理念や家族の役割，高齢者福祉サービス，高齢者福祉施設などについて理解している。	
		共生社会	○		○	○	a：家族の生活に関心をもち，男女が協力して家庭を築くことの重要性について考えようとしている。 c：自分らしいライフスタイルや生活にかかわる価値観等を踏まえ，生活設計を考えようとしている。 d：現在の家族の特徴や機能は社会の変化の影響を大きく受けていることを理解している。	

		食生活		○	○	○	b:子どもの望ましい食事の在り方について自分なりに考え，まとめている。 　食事摂取基準や食品群別摂取量のめやすを活用し，食品の栄養的特質や栄養バランス，経済，能率，家族の嗜好を踏まえたか献立を考え，工夫している。 c:資源・エネルギーに配慮した調理ができる。 d:日本料理の特徴（配膳や食事のマナー，栄養バランス）について理解している。 　食品の栄養的特質，調理上の性質，調理法について科学的に理解している。 　食事摂取基準や食品群別摂取量	・ノート等の記述 ・課題の発表 ・実習の技能 ・定期考査

後期	明日をつくる						のめやすを日常の食事と関連付けて理解している。	
		衣生活		○	○	○	b：被服の洗濯，保管などの衣生活の管理ができる。 c：安全で効率よく布を用いた物の製作をすることができる。（ミシン，アイロン，待ち針の用い方） d：被服の洗濯，保管などの被服管理について，科学的に理解している。	
		住生活	○	○		○	a：自然環境や社会環境と調和した住まい方に関心をもち学習に取り組んでいる。 b：日本の伝統的な住まいの特徴を活かした現代の住まい方について考えている。 　自分や自分の家庭でできる防災・減災について，考えている。 d：災害時にとるべき行動について理解している。	
		消費生活		○		○	b：消費行動への意思決定には様々な要因があることを理解し，自身の消費行動として考えようとしている。 d：消費者信用の利便性と問題点について理解している。 　消費者問題の種類や特徴，対処法について理解している。	

※ 表中の観点について　a：関心・意欲・態度　b：思考・判断・表現
c：技能　d：知識・理解

※ 原則として一つの単元（教材）で全ての観点について評価することとなるが，学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。